MEETING REPORT

The 42 nd Annual Meeting on American Society of Hematology に参加して

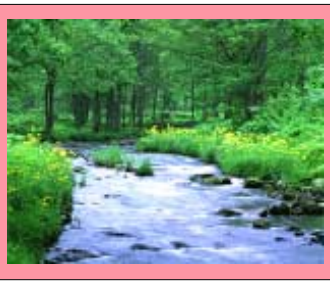
付属病院　検査部
遊佐　希

2000年12月２日から５日まで、アメリカ、カリフォルニア州サンフランシスコで開かれた第42回American Society of Hematology(ASH)に参加しました。会場は元サンフランシスコ市長のMoscone氏が設立したMoscone Centerで、とても立派な会場で期間中天気にも恵まれました。ASH参加者も年々増加しており、ここ数年は15000人を越える多くの血液学者たちが世界各国から集まり活発な討論が各会場で行われていました。

初めての海外の学会参加でとにかく圧倒されてしまいました。まずは受付をしなければと思い受付を探したのですが会場がとにかく広く、人が多く（当たり前ですが周りは体の大きな外人ばかり）迷ってしまいました。それでも何とか無事に受付を済ませることができたのですが参加者が多いため抄録集がなくなってしまったということで、結局高い学会費をはらったのにもかかわらず手には入ったのはネームプレートとプログラムのみでした。それでもめげずにとにかく目的の会場へと目指していきました。どこのセッションへ行ってもとにかく人が多く、席が無く床に座って聞く人もいるくらいでした。会場は大きな疾患別に分かれており基礎から臨床の幅広い分野の発表があり、それぞれの角度からの意見が交わされていました。遺伝子治療のセッションではレトロウイルスを用いた造血幹細胞への遺伝子導入の方法の紹介があり、米国でのめざましい発展が伺えました。またそれと同時に、遺伝子治療の臨床試験に対する規制についての講演もあり、医療技術の進歩とともに患者の意思や権利を守るための組織やシステムの必要性を強く感じました。また、慢性骨髄性白血病(CML)のセッションでは日本ではまだ使用されていない治療薬BCR-ABLチロシンキナーゼインヒビターのSTI571のphase Ⅰでの報告もありました。とにかくすべて目新しく活気があり感動の毎日でした。今回の学会参加はとても良い経験をさせていただいたことと、今後の研究に大変刺激になり、更なる意欲をアメリカからもって帰ってきました。

今回、国際交流基金にてこのような機会を与えて下さった医科学研究所、検査部の方に心から感謝いたします。

編集後記



３月に復刊した医科研NOWに続く第二段、執筆者の御協力を得て発行にいたりました。人も建物を大きく変わりつつある医科研の状況を伝える所内情報紙としての当面の役割が少しでも果たせたらと思います。

いろんな事が激しく動き、あるいは動こうとしているこの時期、本紙の役割、内容もそれに対応していくことが要求されております。皆さんの本紙に対する御意見をお寄せ頂き、充実したものになればと思います。３ヶ月ごとに年間４号を発行予定です。寄稿も大歓迎ですので、宜しくお願い致します。

第18号編集担当　　高崎　誠一

◎ 医科研NOW編集室／〒108-8639 東京都港区白金台４－６－１ 東京大学医科学研究所 ☎03－5449－5572（庶務掛）
委員長：宮野　悟　委員：阿久津達也・大海　忍・高崎誠一・高木　智・田原秀晃・吉田進昭
印　刷：㈱共　進